朝日新聞　平成31年4月19日

知事に現場確認要望

霧島の太陽光発電計画

反対住民ら「認可前に」

霧島市で進められている県内最大規模となる太陽光発電施設の建設計画について、地元住民らが18日、三反園訓知事に対し、建設を認可するか判断する前に現場の状況を確認するよう求める要望書を提出した。霧島市議会では3月、建設反対を求める陳情書が全会一致で採択されている。

提出したのは、地元住民らでつくる「霧島虎ケ尾岡メガソーラー建設反対協議会」。資源エネルギー庁の再生可能エネルギー発電事業計画の認定情報によると、発電事業者は合同会社「霧島ソーラーファーム」。計画は同市霧島田口扇山で、80メガワットの出力を持つ太陽光発電施設を建設する、というもの。

協議会は、付近は急傾斜地で雨に対して脆弱（ぜいじゃく）な地質であり、「木が伐採されれば洪水が起こる。住民の命が危険にさらされる」と主張。霧島神宮も近いため、「日本の伝統文化を壊すことにもなる」と訴え、建設を認めないよう求めた。要望書には、霧島神宮や地元の焼酎メーカー、漁協などによる建設に反対する「不同意書」も添付された。

建設計画をめぐっては、霧島市議会が3月、建設反対の陳情書を全会一致で採択。中重真一市長も建設計画に反対を表明している。

要望書を受け取った県地域政策課は「まだ県に建設の申請は出ていない」とした。

（野崎智也）